

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に沿ってサービスを提供しています。	毎週月曜日の朝礼文に理念・運営目標が記載してあり職員個々に読んで貰い全体で共有しています。日々の介護では、理念の実践として利用者一人ひとりのペースに出来る限り合わせた介護サービスの提供をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事は新型コロナウイルスの感染拡大により中止になっていて交流することができなかった。	コロナ禍で町内会行事は中止になりましたが、地域情報は回覧板で情報収集を行ないました。外出頻度も減少していたので、利用者のストレス解消のため、短時間でも外出できる(日光浴等)機会を増やしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を書面にて開催し現在の様子等を説明し意見等を出してもらうようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を書面にて開催することで以前までは参加できなかった利用者様家族からの意見が寄せられることが多くなった。	運営推進会議を書面で開催した結果コロナ関連 介護事故関連 非常災害関連の意見が多く寄せられました。これらを踏まえご家族が安心できる情報を如何に伝えることが出来るのか対応に努めています。	コロナ禍で運営推進会議が書面開催に変わりましたが、結果として家族からの意見が増えたという成果を生みました。これらの意見をサービスの向上に更に活かしてゆくための創意工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点等は電話でその都度連絡しています。	市の担当者と多く連絡を取った事案はコロナウイルス関連の内容が多かったです。また 問い合わせの具体例として、濃厚接触者の待機期間について不明な点を聞いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会で話し合いを行い、内部研修をしています。	身体拘束適正化検討委員会を話し合いを行い、内部研修をしています。重点テーマはスピーチロックについてです。夜間の施錠については、施錠の基準は20時の職員退社から朝5時までとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で内部研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している入居者様もいますので、必要に応じて利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会にあまり来られないご家族様には書面にて最近の様子を伝えています。説明の際には疑問や不安なことを聞き、納得してもらるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があった際にはすぐに対応できるように取り組んでいます。	意見要望があった際はすぐに検討するようにはしていますが家族との接触機会の少ない時は電話して意見を聞くようにしています。意見があった際は個別に記録しています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があった際には短時間でも都度聞く時間を設けています。	運営に関する職員の意見や提案はその内容によって聞く場を改めて設けることがあります。改めて設けない場合でも職員個々に提案や意見を聞き提案者にまとめた内容を伝え運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い個々の状況を把握しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講する際は参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて、交流する機会を作り取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中から要望等を聞き取り安心して生活ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに要望等をきき、なんでも話せるような関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様及びご家族様の意向を踏まえ、必要な支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができることを一緒に行える環境を整えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会が減少しましたが施設に来所した際に様子を伝えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響により外出機会は減少しましたが、施設周辺を散歩する機会を少しずつ増やしています。	コロナ禍で外出する機会は減少しましたが家族や馴染みの人との関係を途切れさせない為、一定の期間ごとに来所するよう手紙などで連絡をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り支援したり、利用者様同士で助け合いをする等支え合えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に連絡が来ることはありませんが、連絡があった際には都度対応するように努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人にあった支援ができるように努めています。	一人ひとりの希望や意向の把握に努める中、難しい内容(思い込みや実現できないこと)の際に肯定や否定をしないことに気を遣っています。また話をすることが苦手な利用者は日々の様子の中から少しずつ聞き取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員やご家族様・本人様との面談等から情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子から現状を把握し、適切な支援ができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の要望等をもとに職員、介護支援専門員と話し合いを行い、介護計画を作成しています。	現場に即した介護計画は、利用者の状態の変化がなければ3ヶ月に一度見直しを行っています。またその成果については職員への聞き取りや利用者の様子など多方面から確認するようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し、実践し介護計画見直しの際活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対し、可能な限り対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の影響により町内会行事が中止になり参加することができませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて対応しています。月2回の訪問診療を受けています。体調不良等の時もその都度対応していただいています。	訪問医の指示や薬の変更、注意すべきこと等は個人の記録に記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が来るので様子等を伝え適切な看護が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会にて状況把握に努めています。入退院時は訪問医を連携し、円滑に行えるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療サービスの提供は困難なため、ご本人様・ご家族様の要望に応えられるように取り組んでいます。	入所時や状態が変化した際にはその都度説明をしています。会話の中や直接聞いたりして記録に残しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な内部研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に則り避難・消火訓練を定期的実施しています。	毎回ではありませんが入居者も参加してもらっています。夜間想定訓練では避難誘導する職員も限られている為、避難に人数を要する入居者には一時避難場所に避難してもらい消防隊や応援者が来た際に避難訓練をするようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護・接遇については内部研修を行っています。	研修に参加できなかった職員には後日研修内容の資料を渡し、読んでもらい内容を共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような環境を整え、可能な限り自己決定ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活が送れるようにサービスの提供を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けを一緒に行うようにしています。	好きな食べ物の話をしたり、広告等を見て話をしていきます。外食の機会が減ったので今後は宅配等の利用も考え楽しみを増やしていく計画があります。	食事の支度や好みの把握に努め食事を楽しむ支援を行っています。外食の機会が減った分宅配等を利用して楽しむの機会を増やす計画を現実に行える支援に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない利用者様には水分不足にならないように摂取表を活用していません。また食事摂取量の少ない利用者様には訪問医より処方された栄養剤を飲んでもらい、不足分を補えるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けをしています。訪問歯科診療を利用し、口腔内のことについて説明・教育を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンの把握に努めています。トイレで排泄ができるように声掛け・誘導を行っています。	布パンツ・リハビリパンツの比率は5:5です。夜間帯は尿意がある時にはトイレ誘導を行っています。トイレの場所がわからなくて失敗するケースもありますので、声掛け・誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を行っています。訪問医より下剤を処方してもらい、定期的に排便があるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴の機会を設けています。個々のペースで入浴ができるように支援しています。	1Fは午前中、2Fは午後入浴時間を設けていますが利用者の体調や好みで時間帯を変更することもあります。入浴を嫌がる入居者には、世間話をして入浴する環境を整えて入浴支援を行っています。清拭やドライシャンプーを使用して入居者の健康と衛生管理に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休息が取れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時に職員間で情報共有を行っています。変化があった際には訪問医に連絡するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることは無理をせず自分のペースで行ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は自粛していましたが、施設の周辺を短時間散歩する機会を少しずつ増やしています。	時間がある際には内庭で日光浴を行っています。また、職員の付き添いなく、内庭で散歩してもらっています。	コロナで外出する機会が減ってきた中、内庭で散歩し日光浴を行い五感で楽しみ、QOLの向上ADLの低下を防ぐ支援をして、利用者本意の支援をしていることを評価し更なる今後の工夫に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理していますが、利用者様が希望した際には使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があった際には都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の出るような飾り物を掲示し、日付を大きく掲示しわかりやすくしています。	季節感の出る飾り物を、利用者と職員が一緒に作製して共有部分に飾っています。利用者と飾り物を見て会話を楽しみ、季節感を感じてもらう支援をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは個々のペースで過ごせるように環境整備を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使用していた馴染みの物を置いたり、好みのものを置き生活しやすいように支援しています。	居室には、今まで使い慣れていたものを持ってきて頂き、環境の差を少しでも軽減して、利用者の不安を取り、安心して生活できるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に過ごせるように環境整備を行っています。トイレ等には表示を付けわかりやすくしています。		